

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				
I 生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	本校Webページで「学校の様子がよく分かる」と保護者の90%が答えている。	○「学校ブログ」や「進路支援」等の内容を充実させ、保護者に日頃の教育活動や進路指導情報などを分かりやすく情報発信するとともに、閲覧する保護者が増加するよう、周知の方法を工夫・改善を図る。	A	A	A	・90、3%の保護者から肯定的な回答を得た。学校行事の活動を学校ブログで発信することで、学校生活の様子もよくわかり、楽しいという意見があった。中学校の先生からも好評であった。	・webページのみならず、学校ブログを発信するなど、学校の教育活動を保護者、地域、関係機関に具体的に伝えようとする学校の努力がうかがえる。・毎月複数件の投稿があり生徒の様子をわかりやすく紹介してくれ、とても良い。・学校ブログは行事や授業の様子がわかるので、進路を決める際に役立っている。・保護者、関係機関からは十分に理解が得られており評価に値する。今後は地域への伝達をより充実し地域からも理解されることで、更なる豊かな生活の実現が可能になる。・学校が日頃から保護者に向けて発信されていることから、いずれのA評価となっているのが頷ける。・保護者と学校だけにとまらず、地域への発信を視野に入れ、広報や回覧板等を利用することにより、さらに認知度が上がると感じる。	・学校全体だけでなく、学年の様子わかる情報発信やホームページを閲覧する習慣のない方に対する働きかけも必要である。
		管内の中学校・特別支援学校中学部の生徒、保護者、教職員に対して50回以上の説明の機会を設ける。	○積極的に学校訪問を実施し、見学会への参加や本校の特色ある教育活動に興味、関心をもってもらえるように、各校への啓発活動に努める。	A	A	A	・学校見学会2回、中学校への訪問を45校、個別対応の見学会17回等を実施することができ、本校の広報としての役割と効果は大きかった。	・昨年度に比べ、学校訪問をした中学校数が増加している。見学会への参加者数も増加しており、本校の教育活動に対する興味や関心を高めることができている。・積極的な活動が素晴らしい。・中学校訪問の際に保護者等との懇談の機会があるとよい。・中学校への訪問、見学会参加者数を拝見したところ150%以上の伸びを示しているが、これは具体的な説明が確実に行われている成果と考える。・年2回、学校見学会を実施したり、地域の中学校に出向いたり、適宜個別の対応をされており、認知度があがるよう尽力されている。	・組織対応で年度の早い段階で学区を網羅して訪問する。また、見学会では中3生の作業体験の機会提供等の内容の工夫も今後は必要である。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	「個別の教育支援計画」が有効に利用されている」と保護者・教員の95%が答えている。	○保護者と教員が個々の生徒の課題やニーズを共有して「個別の教育支援計画」を作成し、教育支援連絡会や三者面談において共通理解を図り、効果的な支援が実践できるよう努める。	B	B	B	・保護者からの肯定的評価は93.1%だった。否定的なご意見はないので、内容よりも活用課題があると思われる。	・教育効果を高めるためには、保護者と教員が目標と具体的な支援方法、役割分担を共通理解することが重要であり、引き続き取組の強化を図ることができるとよい。・個別の支援計画を参考にし訪日や家庭での支援に繋がっている。・保護者からの肯定的評価93.1%は十分に評価に値する成果と考える。これは教員の皆様と保護者の皆様との間のコミュニケーションが十分に成され理解がされている成果である。・保護者様は肯定的に受け止めているとの学校側の評価であるが、B評価というのは共通理解が図れているか疑問である。	・簡潔で分かりやすい文章表現と丁寧な説明に心がけ、保護者と共通理解を図ることに努めるとともに、内容を確認できる機会を設定する。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	支援を行った地域の高等学校等から、90%以上の満足度を得ている。	○支援要請を受け、速やかに日程調整を行い最適な支援スタイルに対応する。 ○共有した情報や支援方法をまとめたより具体的な「相談記録」を作成し、迅速且つ適切な指導ができるよう対象校へ提供する。	A	A	A	・昨年度より多い支援要請があった。全ての要請に対応し、学校の希望に合わせて日程調整や資料作成を行った。実施校から90%以上の満足度を得ることができた。	・実施校から高い満足度を得られていることから、十分に期待される役割を果たすことができている。・センター的な役割を果たしていることについて、あまり知られていないと思うため、もっとアピールした方がよい。・初めて取組を知った。・要請の全てに対応し、しかも実施校から90%以上の満足度を得たということは、当に地域の特別支援センター的な役割を果たしていると言え、大いに評価されるべきことと考える。・支援要請が多い時期でも相談記録を速やかに作成、提出できるようにする必要がある。・相談記録の活用状況や内容の適切性について確認する必要性を感じている。	・支援要請が多い時期でも相談記録を速やかに作成、提出できるようにする必要がある。・相談記録の活用状況や内容の適切性について確認する必要性を感じている。
		情報提供の機会を設定し、参加者の90%以上から満足を得ている。	○高等学校等のニーズを把握した情報収集に努め、「サポート通信」「個別相談会」「特別支援教育推進研修会」「学校見学会」において効果的に情報提供を行う。	A	B	B	・「サポート通信」の発行を行うことができた。校内で通信を回覧して支援を必要としている生徒への気付きを促している、という報告があった。 ・相談会や研修会の開催は行えなかった。	・サポート通信の発行ができていた点がよかった。・センター的な役割を果たしていることについて、あまり知られていないと思うため、もっとアピールした方がよい。・「サポート通信」は母集団形成のための情報提供ツールの一つですので、サポート通信のみの成果は見えずらいため、何よりも実施校の90%から評価されているので、支援センター的な役割は十分に果たされている。・研修会等の開催については、高校のニーズを把握すること、それに適した情報提供機関(者)を探すことが課題である。	・研修会等の開催については、高等学校のニーズを把握すること、それに適した情報提供機関(者)を探すことが課題である。
4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。		「『個別の指導計画』に基づいた、きめ細かな指導・支援が行われている」と保護者の95%以上が答えている。	○個々の生徒の実態に応じた「個別の指導計画」に基づき、指導の工夫や改善を検討するとともに、学年や教科で共通理解を図り、よりきめ細かい指導を実践する。	B	B	B	・94、4%の保護者から肯定的な回答を得た。職員から、「きめ細かく個に応じた計画にはなっていないのではないか」という意見がある。	・多くの保護者から、本学の指導に対して信頼されていることがわかる。今後も、進路選択についてのミスマッチを防ぐため、一人一人の特性に合わせた支援の充実を図れるとよい。・個々の内容はわからないが、全体への取組と個別対応のバランスをとって、効率的に取り組み、教員の負担軽減もお願いしたい。・きめ細かい指導が行われていると実感している。・各個人の個性に応じたきめ細かな指導・支援は教員の皆様の負担を考えるとかなり難しいのではないかと感じる。保護者には高い評価を頂いているので、現状路線の継続で良いのではと考える。・特別支援学校の核となるべき「個に応じた学習の充実を図っていくかなければならない」箇所での評価がB評価というのは、再度、生徒一人一人に適した授業づくりに時間をかけて欲しい。	・個別の指導計画のもとになる年間指導計画と単元ごとの評価規準について研修を行い、授業のねらいを明らかにするとともに、教科部会で指導内容や指導方法を検討する。

Ⅲ 生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。		いじめの防止に向けた本校の取り組みについて保護者の95%以上が満足している。	生徒指導	○いじめの未然防止、早期発見、事案への迅速な対応に努め、生徒や保護者が安心できる学校づくりに取り組むとともに、本校のいじめ防止基本方針の周知をなお一層充実させ、共通理解を図る。	B	B	B	・SNSに頼らないコミュニケーション力向上を図り未然防止につなげ、学期に1度のアンケート等で早期発見に努めているが、学校評価アンケート結果から保護者の理解は目標に達していない。 ・各学期にソーシャルスキルトレーニングを計画し取り組んでいることはいじめの未然防止に効果的であると考える。 ・いじめ防止に向けた活動を今までどおり推進してほしい。 ・常に迅速に対応していると感じている。 ・「いじめ」被害は生徒や保護者の主観により、保護者の不安や心配から創られるものもあると考える。 ・生徒だけではなく保護者に対してアンケートを実施することで、不安解消、いじめの早期発見に繋がるのではと考える。 ・保護者アンケートから、「学校の取組がわからない」や「いいえ」等と回答した保護者が15.3%と一定数いる。不安に感じている保護者もいることから、わかりやすい説明が必要となり、安心安全な学校づくりを目指して欲しい。	・職員研修において組織的で迅速な対応を目指して共通理解を図るとともに、保護者への周知も適宜実施し、生徒及び保護者が安心できる学校づくりに努める。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	一人2回以上の授業を参観するとともに、研究授業・授業研究会・研修会等を計画・実施する。	学習指導	○計画的、継続的、組織的な授業改善に取り組み、授業参観、研究授業、授業研究会等を年間5回以上実施する。	B	B	B	・94.4%の保護者から肯定的な回答を得た。授業改善のため研修は有意義であった。わかりやすい授業の実践について今後も努力を要する。 ・自己満足にならないように外部の意見も積極的に取り入れると更によい。 ・実習先で必要なスキルが学科を越えて学べるよ。 ・どのような授業がどのように実生活に反映されているのかを確認するために、定期的な授業参観を実施することは有益と考えるので、引き続き実施をお願いしたい。 ・研修のための研修とならないように、日頃から生徒を良く観察し、「何ができるようになるか」に焦点をあて、授業改善に取り組んで欲しい。	・知識や技術の確実な定着に向けて、研修内容を精選したり、教科や学年で指導方法の工夫や改善点を話し合い共有したり等、より実践的な学習指導ができるよう努める。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	生徒一人一人の健康上の配慮や対応、感染症対策について保護者の95%以上が満足している。	保健保安	○日々、生徒の健康状態をきめ細かく把握し、保護者や医師、関係機関と連携した健康管理に努める。 ○要治療の生徒に対し、長期休業後の治療確認と未治療の生徒への再通知等を徹底し、治療の促進を図る。	B	B	B	・日々の生徒の健康管理については、担任と連携を取り、連絡・報告を密に取ることで対処してきたが、感染症対策について、満足度で目標に達していない。 ・養護教諭不在時などにおける、緊急な対処法を検討する必要性があった。 ・健康や安全は日常生活と密接に関連していることで、教員間の情報共有だけでなく、家庭も巻き込んで進めていく必要がある。 ・感染症対策は徹底し過ぎれば疎外感を生むため、バランスが難しい。 ・バランスへの配慮をお願いしたい。 ・健康に関することは家庭の協力が必要である。学校における感染症対策には満足している。 ・感染症対策や健康に対する配慮について、保護者がどのような対策を望んでいるのかポイントになると思っているので、どのような対策を求めているのかアンケート等により情報収集し、上位項目から対応することで配慮のある適切な対応となる。 ・コロナ禍同様、うがい、手洗い、換気等を徹底することで、生徒の意識が高まると思う。 ・感染症対策について、「わからないやどちらかといえばいいえ」と回答した保護者が8%いることから家庭を巻き込んで取り組んでいくのが良いのではないかと。	・感染症対策については、コロナ禍だけでなく、手指消毒や換気など、あらゆるウイルス感染症への対策は今後も継続していく必要がある。 ・養護教諭に一任するだけでなく、生徒の健康に関しては、教職員間で情報を共有する必要があるため、徹底に向けて工夫や改善を行う。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	火災や地震など、緊急時の対応や避難経路について生徒の80%以上が理解している。		○火災や地震など、様々な災害を想定した避難訓練を実施するとともに、学校と保護者が連携した危機管理体制の構築を図り、安全・安心な学校づくりに努める。	A	A	A	・火災や地震に対する避難訓練において、消防署や防災業者と連携した実践的な訓練を実施し、緊急時の対応が概ね理解できているとの評価である。 ・生徒によっては理解が難しいため、わかりやすい避難誘導が必要である。 ・災害発生時の対応で重要なことは、冷静に対処することと考える。 ・消防や防災業者との実践的な訓練は、普段生徒が目にする環境の中での訓練なので、普段からそうした環境に慣れることは非常に有意義と考える。 ・他機関と連携して行っていることは素晴らしい。 ・生徒にわかりやすい説明、絵や図等を用いて対応ができると良いと思う。 ・マニュアルどおりにいかないことの周知や工夫が必要である。	・生徒及び職員の安全確保に向け、より実践的な訓練の実施に努めていきたい。 ・不審者対応訓練が未実施のため、来年度に向け実施を検討していく。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	「生徒が自らの成長に向けて努力している」と保護者・教職員の80%が答えている。	進路指導	○キャリアパスポートを活用し、生徒がなりたい自分の姿に向けて日々成長していることを実感できるような指導する。 ○面談等とおして、保護者と情報を共有するとともに、様々な機会において具体的な指導内容や生徒の成長を伝える。	A	A	A	・生徒の努力の様子を保護者・教職員とも実感できているが、キャリアパスポートの内容や使い方、生徒の努力の成果については改善の余地がある。 ・系統的な指導計画が立てられ、実践することができている。 ・系統的な指導ができているかはわからないが、生徒が実習により成長していることは実感している。 ・キャリアパスポートは小・中・高を通して一貫した教育が目指せるツールとして有効かと思うが、小・中のご協力を得たり保護者にその有益性を十分に理解してもらうことで、成長する姿が明確になり、将来に向けた指導に結び付くと考える。 ・早い段階から将来に向けて取組を行っていることが高評価となっているが、マンネリ化を防ぐためにもキャリアパスポートの内容の見直しを行い、生徒の実態に即しているかどうかを検証する必要がある。	・キャリアパスポートの内容や活用方法について検討していく必要がある。 ・教職員のキャリアパスポートに対する意識の違いがあるので、有効活用している職員の取り組みを紹介したり、内容検討の際に意見を求めたりしていく。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	保護者・関係機関を招いた情報提供の場を年間5回以上開催し、保護者・関係機関の80%以上が満足している。		○保護者会、進路セミナー、企業採用担当者学校見学会、福祉サービス事業所との情報交換会等を実施し、個々の生徒や保護者のニーズに応じたきめ細かな進路指導に取り組む。	A	A	A	・企業から直接保護者に説明していただく機会を設けたり、必要な時期に必要な情報を伝えるよう心がけたりしたことが、保護者の満足度につながったと思われる。 ・多くの生徒に企業実習等の機会を与え、ジャンプアップしてほしい。 ・進路を考えるにあたり、企業から社会人として必要なスキルを知ることができ、役立っている。 ・多くの保護者は卒業後の就労や社会生活に不安を覚えることが多いと思うが、そうした中で企業から直接保護者へ説明する機会を設けることは保護者にとって非常に有益であり、良い方策と考える。 ・保護者が直接企業に話を聞く機会を設けているのは画期的な取組である。 ・今後も増やしていくと、より保護者にわかりやすい進路指導になる。	・保護者の行事参加率をあげたり、行事に参加していただく関係機関の地域・職種等が偏らないようにしたりする工夫が必要である。